

令和7年9月11日

編集・発行

学校支援課 広報担当

Support


<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

Report -授業改善-

資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現へ 授業改善のキーワードは「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

～今年度の授業づくり～ 「新潟市授業づくりサポートver.2」より

主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善について、「単元デザイン力の向上」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の推進」に重点を置いています。

各校で様々な授業づくりの校内研修が行われています。「授業づくりの要件（1時間の授業で求めたい子どもの様相）」を常に念頭に置き、多様な子どもたちが「分かった・できた・楽しい」と思える授業づくりを推進していきましょう。※「全ての子どもが自覚する・見通しをもつ」がポイントです。

授業づくりの要件（1時間の授業で求めたい子どもの様相）

「何を学ぶのか」

課題やめあてを全ての子どもが自覚する。

「どう学ぶのか」

全ての子どもが見通しをもつ。

「追求・取組」

学習環境や活動、教材、支援のもと、個人で、または仲間と取り組む、追求する。

「何を学んだのか」

獲得した知識・技能や見方・考え方を全ての子どもが自覚する。

「どう学んだのか」

追求過程や成長、学習の価値を全ての子どもが自覚する。

学習の主体者は子ども！☆教師は伴走者
子どもが学習の中で自己決定・自己選択する！
★教師は単元終末の子どもの姿をイメージし、単元デザインする。「子どもに委ねる」ことを意識しましょう。



※新潟市立総合教育センター「個別最適な学びと協働的な学びを設計する授業づくり」7/24(木)研修講座資料より

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

個別最適な学び

子どもが自己調整しながら学習を進めていく



「〇〇について考えていこう」
「この方法で進めていこう」
「この見通しでやっていけそうだ」

協働的な学び

異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す



「〇〇さんと〇〇さんの意見は似ているね」
「〇〇さんの考えに付け足すと…」
「□□だったら、こんなことができそう」

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の具現に向けて、右の視点で授業を捉え、改善を図っていくことが大切です！



このページに記載の内容は「授業づくりイメージ動画」でご覧いただけます。



「新潟市授業づくりサポート」は、L-gate→教材・アプリ→e-Supportからご覧いただけます。

Report - 計画訪問 -

計画訪問を主体的に活用

通常学級1～3学級及び特別支援学級1、2学級の代表授業と協議会を通して、授業について学び合うA方式と、指導案の作成や協議会を行わず、自校の教育ビジョンや研究計画をもとに全学級授業公開することで学び合うB方式を、昨年度より実施しています。

今年度、奇数学番の学校園では、A方式が48校園（53%）、B方式が42校園（47%）です。各校園の実態を踏まえた目的に応じて、A・Bそれぞれの方式を有効に活用いただいています。授業づくりに真摯に向き合う教職員の姿が、子どもたちの姿に現れています。まさに学びの相似形です。



幼稚園



小学校



中学校



高等学校



協議会の様子

計画訪問では、教育課程の実施状況や教育ビジョンの取組状況を、校長懇談や授業を通して確認させていただいています。どの学校園でも、研究計画や新潟市授業づくりサポートをふまえた教師の熱意あふれる授業と、意欲的に学ぶ子どもたちの姿が見られています。

< A方式の授業後の協議会について >

自校の研究主題や研修テーマに沿って、身に付けさせたい資質・能力に迫る授業となっていたかどうかや、本時のねらいと評価や教科の本質等についての協議がされています。中には、参観する教職員全員が授業中の子どもの姿の写真に撮り、それを共有しながら協議題に関する議論をする学校もあります。各校の研修方法の工夫や研修の日常化の様子が見られます。

一方で、具体的な教師の手立てや感想のみに終始する協議会も見られます。せっかくの協議会です。ぜひ充実したものとしてください。



Report - 要請訪問 -

要請訪問は、学校園のさまざまな要請に応じて学校支援課、教育相談センター、総合教育センター、特別支援教育課の指導主事が訪問し、学校園の課題解決や学校運営の推進のための指導・支援を行い、教職員の力量形成を図ることを目的としています。昨年度は80件訪問しました。

特に「授業づくり」に関しては、昨年度34件、今年度8月末現在20件を超えています。全職員が参加しなくても一部の教職員向けに行うこともできる上、オンラインによる相談も可能です。指導案検討や有志による小グループ研修にも活用できます。

ぜひ積極的にご活用ください。



新潟市の 人権教育、同和教育

本稿では、新潟市が推進する「同和教育を中核とした人権教育」について、実践と研修の両面から見てみましょう。

確かな実践 ～「生きる」シリーズを活用しよう～

新潟市では、小学1年から高校3年までの全学年で、同和教育副読本「生きる」を活用した授業を実施しています。

昨年、「生きる」シリーズ全5冊のうち、小学校低・中学年向けの「生きる」ⅠとⅡが、およそ20年ぶりに改訂されたことはご存じでしたか。

右は、新版「生きる」Ⅰの最初の教材です。入学直後の小学生でも対応できるよう、絵だけで構成されています。

では、皆さんに挑戦です。

この絵から、人権問題について学ばせることができる箇所を10個見つけてください。

いかがでしょう。訪問先でこの問いをした際、20個も見つけた方もおられました。

一枚の絵を眺めてみるだけで、授業のアイデアが膨らんでいませんか。

せっかく新たに整えられた教材を使わない手はありません。どうか、まずは「生きる」シリーズを手に取り、ページをめくってみてください。小学生はもちろん、中高生にも活用できる題材がたくさん散りばめられています。

なお、「生きる」シリーズの購入を希望される方は、新潟県同和教育研究協議会事務局（025-523-3864）にご連絡ください（Ⅰ・Ⅱは500円、Ⅲ～Ⅴは400円です）。



確かな研修 ～「知る」ために学び続けよう～

新潟市の全ての学校園は、「同和教育を中核とした人権教育」にかかる校内研修を年間2回以上実施します。

夏季休業中の校内研修について、学校支援課には、延べ74校から要請訪問や外部講師派遣等の依頼がありました。

右は、今年度の要請訪問における資料からの抜粋です。これらは、新潟市が5年ごとに実施する「人権に関する市民意識調査」に示されている人権問題です。

さて、これらの人権問題のうち、前回調査(H30)と比べて、最新調査(R5)で関心が高まった問題はどれでしょう？

この解を知ることは、人権問題の今を知ることに他なりません。多様化、複雑化が日々進む人権問題の今を知るために、今後も研修を重ねていきたいものです。

〔解答：関心が高まった人権問題 1位：感染症（+16p）、2位：性的マイノリティ、3位：インターネット（+9p）〕

前回調査(H30)から 関心が高まった人権問題は？

アイヌ	インターネット	感染症	子ども	出所者
障がい者	性的マイノリティ	同和地区	新潟水俣病	
犯罪被害者	ハンセン病	ホームレス	拉致被害者	女性
外国人	高齢者	災害に伴う	公権力による人権侵害	

1位

2位

今ドキな人権問題